

## 30 血液浄化センター



血液浄化センターは17台の透析ベッドを有しており、入院患者・外来透析患者の血液浄化療法を広く担当している。13名の医師が診療に従事しており、その多くが日本内科学会・日本腎臓学会・日本透析医学会の定めた専門医・指導医の認定資格を有し高度な医療の提供に努めている。メディカルスタッフに関しては、専属の看護師が10名、臨床工学技士が2名配属されており、より多様化する疾患や重篤な症例に対して安全で質の高い血液浄化療法・看護の提供に従事している。

30年度の実績として血液浄化実施総数は6,256件（患者数6,104人）であった。血液濾過透析、ECUM、出張透析、血漿交換、DFPP、血液・血漿吸着、腹水濃縮等の特殊血液浄化総数は2,077件であった。昨年度に比べ、血液浄化実施総数は減少し、例年と同程度であった。特殊血液浄化では、血液濾過透析の大幅な増加に起因した総数の増加が認められた。

※30-1, 2は血液浄化実施総数を示している。30-1は従来通り患者数として表記し、30-2は29年度から件数として表記している。合計の乖離は同一患者に複数の血液浄化療法を同時に実施したことによる。

### 30-1 年度別透析延患者数 (人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率(%)
入院	5,677	5,208	5,240	5,771	5,031	82.4
外来	895	927	991	961	1,073	17.6
合計	6,572	6,135	6,231	6,732	6,104	100.0

### 30-2 年度別透析導入患者数 (人) ※(件)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率(%)
定時透析	6,364	5,870	6,006	6,352	5,980	95.6
緊急透析	208	265	225	457	276	4.4
(うち導入)	(80)	(87)	(69)	(57)	(74)	(1.2)
合計	6,572	6,135	6,231	6,809	6,256	100.0

### 30-3 年度別特殊透析延患者数 (人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率(%)
血液濾過透析	582	503	97	898	1,328	63.9
(うち緊急)	(6)	(8)		(3)	(16)	(0.8)
血漿交換	115	144	131	214	116	5.6
(うち緊急)	(21)	(34)	(37)	(108)	(21)	(1.0)
二重濾過 血漿交換	60	41	49	32	36	1.7
(うち緊急)	(3)	(2)	(3)			
腹水濃縮	14	23	19	19	10	0.5
(うち緊急)	(1)	(7)	(7)	(5)	(2)	(0.1)
血液吸着	91	94	88	2	47	2.3
(うち緊急)	(3)	(4)	(5)	(2)	(1)	0.05
血漿吸着	161	138	57	74	124	6.0
(うち緊急)	(6)	(6)	(1)	(2)	(8)	(0.4)
出張透析	328	304	215	165	223	10.7
(うち緊急)	(35)	(49)	(34)	(72)	(54)	(2.6)
ECUM	179	216	226	148	193	9.3
(うち緊急)	(8)	(25)	(21)	(55)	(33)	(1.6)
合計	1,530	1,463	882	1,552	2,077	100.0
(緊急合計)	(83)	(135)	(108)	(247)	(135)	(6.5)

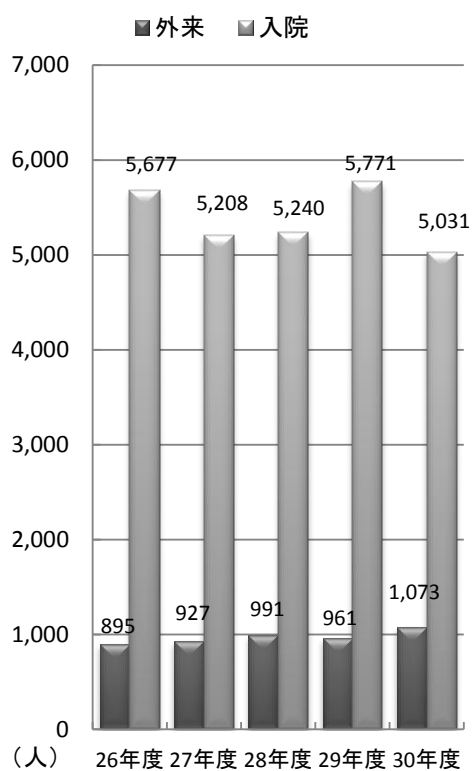
30-4 年度別腎臓病教室出席患者・家族数 (人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率(%)
実患者数	41	28	46	45	30	83.3
実家族数	20	22	16	13	6	16.7
合計	61	50	62	58	36	100.0
延患者数	102	97	163	134	101	87.8
延家族数	36	42	46	30	14	12.2
合計	138	139	209	164	115	100.0

30-5 年度別腹膜透析患者数 (人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	30年度 構成比率(%)
導入	4	4	3	2	1	0.9
外来	188	184	157	120	113	99.1
合計	192	188	160	122	114	100.0

30-6 透析延患者数の年度別推移



30-7 30年度特殊透析延患者数の構成比率

